

# 全員協議会会議録

- 1 日 時 平成28年9月5日(月)  
16時01分開会 17時04分閉会
- 2 場 所 役場3階第2委員会室
- 3 出席議員 鈴木孝寿・桜井崇裕・北村光明・高橋政悦・木村好孝・原 紀夫  
口田邦男・中島里司・奥秋康子・安田 薫・西山輝和  
議長：加来良明
- 4 事務局 事務局長：佐藤秀美、係長：宇都宮学
- 5 説明員 町 長：高薄 渡  
副町長：金田正樹  
総務課長：小笠原清隆  
町民生活課長：中村富志男  
農林課長：池守輝人  
建設課長：菅野靖洋  
水道課長：堀秀徳
- 6 議 件  
(1) 町長からの申し出事項について  
・台風10被害の状況及び対応について
- 7 会議録 別紙のとおり

加来議長：皆さんこんにちは。今日は急遽連絡し、大変なところ集まっていただきありがとうございます。今日は、先週金曜日に皆さんと被災場所を視察した時にも話をしたように、執行側から現状の進捗状況など、ある程度の方向が見えた時に説明してもらうことになっていた。今日、執行側からある程度の部分の説明ができることになったので、急遽集まってもらった。限られた時間だが、忙しい中執行側にも対応してもらったので、速やかな報告を受け、対応していきたいと思う。皆さんの協力をお願いします。

さっそく始める。

最初に、町長からあいさつをお願いします。

高薄町長：皆さん、集まっていただき誠にありがとうございます。このたびの台風10号による大災害ということで、上流では道立自然公園がある穏やかなペケレベツ川が大氾濫し、その他には旭山方面を含めたさまざまな河川が氾濫した。今まで安全安心な町であった本町にとってこれまでにないような非常に大きな被害だった。町民の皆さんにとっても、このような災害になると思っていなかったと思う。被災された方々においては大変お気の毒なことで、深くお見舞いを申し上げます。議員各位が町民と一番接しているところで、さまざまな意見を聞いているかと思うが、私どもとしても対策・対応に追われて、早めにとまっているが、どうしても不慣れで後手になる部分もあり、大変迷惑をかけたと思っている。早くに集まりたいと思っていたが、国、道、道警、自衛隊からの派遣隊等の対応に追われると同時に、被災箇所の対応に多くの時間を費やした。少し方向性が見えたところから順次改善策・作業に向かっていきたいということで、共通理解をいただきたい。

なお、行方不明者2名の人命救助としてそれぞれの分野で対応し、出動していただいている。

また、関係機関により、応援隊、清水赤十字病院での災害救助隊を含めて、さまざまな分野でご理解をいただきながら対応にあたっている。そういうことなどを含めて、若干の時間をいただき、意見交換をしながら次のステップにしていきたいと思っているので、よろしくをお願いします。

加来議長：先ほど言い忘れたが、佐藤議員は行方不明者の捜索で欠席している。

高薄町長：9月3日に石井国土交通大臣と以下幹部が来町している。本日は松本防災担当大臣、高橋知事が執行機関として来ている。その前には公明党の議員団、共産党の議員団、自民党道議会の地区の担当方、道議会議員の十勝地区の方もお見舞いを兼ねながら状況の把握に努め、被災状況を見た。

加来議長：この後は、副町長から説明等の進行をお願いします。

金田副町長：清水町の状況について、昨日までの取りまとめの結果を配付した。先ほど災害対策本部を開き、現在、わかる範囲での数字をこれからお知らせするが、全貌がつかめていないので数字のずれ等があるかもしれないが、ご了承をお願いします。特に、今日はライフラインである水道の復旧状況、道路、床上浸水、農業施設等の被害等について、わかる範囲での説明をする。説明の詳細については、資料がないところもあるが、ご了承をお願いします。

1点目、避難の関係だが、避難指示、避難勧告等をそれぞれ出した。現状、清水2か所、御影に1か所ということで避難所をつくっていたが、ほとんど自宅に帰っている。ただ、水が来ていないので、もう少し避難所で過ごされるという方もいると思う。特に、そこのケアについては配慮して、保健師、日赤からの先生方も含めて協力をいただいている。食事についても炊き出しの協力をいただき、快適ではないにしてもそこで生活をしていただいている。水が戻った時点でその後の対策については検討していかなければならないと思っている。

次は担当課長が出席しているので、順次説明をする。

まず、水道の復旧状況について水道課長より説明をする。

堀水道課長：水道の状況については、今回の水道の断水については、ペケレベツ川の氾濫による第1、第2浄水場からの送水管の破損、また小林川の取水口から水が取れなくなったことによる断水となっている。現在の状況は、取水口については仮設の取水口を昨日設置したことにより、本日浄水場までの流入を確認した。

次に、管の復旧状況は、まず市街地に入る石山橋の第2浄水場からの配管及び274号線沿いに入っている第1浄水場からの送水管ともに資材をすでに発注し、明日から明々後日くらいまでの間に資材が届きしたい即座に繋ぎ込みをし、その後水を通すことにしている。

また、下佐幌、人舞地区における第2浄水場からのもう1本の送水管についても損傷が認められたが、こちらも即座に資材を発注し、着きしだい繋ぎ込みをし、通水をしたいと考えている。断水の解除については、本日から2週間後を復旧の予定としたいと思う。

次に、御影地区農業用水、字清水から字旭山、御影までの日高山脈沿いの農業地帯については、石山除塵池及び円山除塵池の2か所から通水をしていたが、いずれも今回の台風により取水口が破損している。円山の除塵池については冠水によって、現在、建物の中に土砂が溜まっている状況。また、あちこちの氾濫により、管路等も一部破損しているため、現在、水がほとんどない状況の中、農協と農林課の力を借りてファームポンドという水の溜まり場に水を運んだり、管が破損している下流等については、戸別に水を運んだりしながら対応をしている。現在も全容がつかめていない中、皆さまの協力を得ながら水を配るという体制をとり、当面の間は維持をさせていただきたいと考えている。復旧の見通しは、現在のところ全くたっていないが、今後、技術援助等を考え、早急に解決できるように努めたい。

金田副町長：質問は説明が終わってからとする。

道路、橋梁関係について建設課から説明する。

菅野建設課長：町道については、31路線が現在通行止めになっている。そのうち、橋梁の損傷が17箇所含まれている。現在の復旧の状況は、道路についてはできることから復旧作業を始めた。橋については、すぐ復旧することが難しい面があるので、現在、スクールバスの経路、ごみ収集車の経路、生乳収集車の経路等を考えて、仮橋の設置をしている。

金田副町長：次に、農業関係で農林課から説明する。

池守農林課長：営農用水の断水に伴い、乳牛、肉牛の飲料水をどう確保するかについて報告する。断水が起きてすぐのJAとの協議によって、今後の水の配付体制について、まずはJAが配付体制をつくり、ローリーや人を手配する。水は清水町が確保するというような体制をつくることにしている。なお、町の方でも牧場の4トンダンプ2台を使い、農協の補完的な立場として酪農家へ配付している。

給水所については、営農用水の給水ということで、熊牛の給水施設、熊牛小学校、御影支所の給水所の町内3か所の給水所を指定し、そこから給水をさせていただいているが、それでも台数が台数なので足りなくなるということから、町外の協力をいただいている。9月3日から鹿追町、9月4日からは土幌町、中札内村、芽室町、音更町ということで、計5つの町村から協力をいただいていることを報告する。

金田副町長：町民生活課から住宅等の浸水の状況、浴場の確保の関係について説明する。

中村町民生活課長：入浴関係を報告する。9月2日から新得町のレイクインの協力をいただき、給食センターの送迎バスを活用し、1日3往復、町民無料ということで運行している。その間、町の公衆浴場は活用できないかとも検討したが、現在はレイクインと近隣の施設にご好意をいただき、町民に開放していただいている。これは、断水が解消するまでということで予定を組んでいる。送迎バスについては、50人乗りのバスだが、利用者がそれほど多くはないので、乗る場所を巡回して広めていきたいと考えている。

次に、消毒の関係は、現在、消毒をするために床上・床下浸水の確認をした。建設課も含めて確認をしたが、本日現在、床上については5戸、これ以外に公共施設で2か所、床下浸水については21か所を口頭で聞き取りをし、この間に増える可能性はあるが、現段階ではこういう数字ということで捉えている。今後、確認し、早急に消毒活動に入っていきたい。

金田副町長：急ぎの中で、ライフライン関係の被害について説明した。説明不足な点があったと思うが、確認の意味で意見を伺う。

加来議長：説明を受けた範囲の中で質問を受ける。

原議員：新聞やテレビ等で大きく報道され、大変な状況になっているということは全国津々浦々に知れ渡っていることだが、今日の十勝毎日新聞を見ると、石山地区では農家をやめてしまうような報道もされている。営農用水については多く飼育している農家が困っているのではないかということだが、現状で大丈夫か。また牛をどこかに連れて行くというようなことをしないと、水を飲ますことができないということはあるのか。

堀水道課長：現在のところ、牛の移動などをしなければならないという状況は聞いていない。確かに、議員が言うように、今後、更に水不足が進んだ際には、そういうこともあり得るかもしれないが、そういう状況にならないように今後もJAと協力しながら水を配っていききたい。

また、先ほども言ったとおり、戸別の対応もしながら今あるファームポンドの有効活用を更に考

え、水を皆さんにできるだけ供給していきたい。

また、緊急にできる事業等も今後考えていかなければならないと考えている。

高薄町長：先ほど言ったように、各省庁から来ており、大臣や知事に超法規とは言わないが、それに近い状況の中で路面に出したりしなければならぬ部分があり得る。道路横断などあるが、その辺の部分については規制ではなく、柔軟な姿勢を持ってもらいたいという要請を現場でしている。そういうことも含めて、あらゆる手立てをして基幹産業を守っていかなければならないので、全力を尽くしていきたいと考えている。

桜井議員：関連して営農用水の関係だが、おかげさまで川東の方は現在も水が出ている。立ち上げの中で酪農家は自らタンクを用意して取りに来たり、防除の水を取りに来たりしているが、もっとそういった人たちが気兼ねなく行けるような体制をぜひとってもらいたいと思う。

堀水道課長：ただいま、桜井議員が言ったように、できるだけ皆さんに熊牛からの供給の水を使っていたきたいところではあるが、熊牛の浄水場の能力にも限界があるので、現在の状況以上の水を使うことはなかなか難しい。ただ、今後、開発等と協議をして、熊牛の営農用水の活用も視野に入れながら、水の確保には更に努めていきたいと考えている。

桜井議員：ぜひお願いします。もう一つ、入浴も困難で、生活用水に苦労しているが川東に福祉館が4か所あり、何とか町民が洗濯できるようにできないかという要望もあるので、そういった面についてはどうか。

金田副町長：川東方面の4つの福祉館を洗濯の場所として提供してはということだが、そこまで検討はしていない。とりあえず、飲み水対策で何とか早くできないかなど、5か所の給水所でやっている。そこまではまだ検討していないのが事実で、要望があるということについては十分理解をした。

桜井議員：利用できる場所はした方がいいのではないかとこの要望があるので、そういったことも検討してほしいと思う。

高薄町長：今の話は分かった。給水はいいとしても排水をどうするか。これをやらなかったらまた苦情が出てくる。入りがあれば出る側もあるということの説明してほしい。

西山議員：今回、水が出ないということで町民が一番不便だと思うが、お風呂を自衛隊に要望できなかったのか、または断られたのか。

金田副町長：当初、自衛隊のお風呂の関係は要望を考えていた。その中で、レイクインの関係が提供されたということもあり、最後の最後で自衛隊という形になるので、そこまでいかなかったということが現状。

加来議長：今後も要求はしないということか。

金田副町長：話はしている。

小笠原総務課長：自衛隊の派遣の関係については、最初に町内でやり、足りないところを自衛隊にお願いするということが原則になっている。まず、お風呂の件に関しては、レイクインへ運ぶ、その段階でそれでは足りなくて不便をかけるのであれば自衛隊にお願いするという形になっているので、そのルートを踏まないで、一番先に自衛隊にお願いをして、うちの方は何もしないということにはならないので、順番をクリアしなければならないということを理解してほしい。

口田議員：別荘地帯の人命救助を盛んにやっているが、その奥に別荘の銀座街があり、そこが孤立している。その現状を把握しているのか。

小笠原総務課長：銀座街を私は掌握していないが、コニファーから上の方に住んでいる方がいて、その方と連絡が取れて消防隊がそこまで行き、確認はしている。あの周りにも家はあるが、住んでいなかった。行き先がわかっている方がいて、そこにいることは確認されているので、孤立しているところは特にないと私どもは押さえている。

口田議員：車の出入りはできないのか。

小笠原総務課長：今、捜索中なので規制線が張られて一般の車両については入れないような状況になっている。

口田議員：今、課長が言ったとおり、3、4人は住んでいるはず。その方がどうなっているのかわからなかったのが心配していたが、行けない状況なので聞いた。

小笠原総務課長：上の方については、中野川の上の方になる。水が入ってくるのはその下で、今捜索しているところは、川と川の真ん中で普通川が走らないところから走ってきている状況で、上の方については増水によって孤立ということにはならないと思う。そういうような形であれば、避難してくださいということで避難勧告をするが、本人はまだ大丈夫ということで現状ではそこにいる。

北村議員：役場の職員は精一杯頑張っていることは、日々見て感謝申し上げるが、「町内で臭いがしてきて

いるが衛生上の問題はないのか」という声が何人かから聞いた。石灰を撒くなどの対策が必要ではないかという話だが、単なる泥だけではなく、農業関係から流れたものが混じているのではないかという意味合いも含んでいるのではないかと思う。

中村町民生課長：今の件については、先ほど説明した消毒の関係でいろいろな方法を検討した。石灰についても検討はしたが、使う場所によってその消毒剤をどうするかという問題もあるので、その辺も含めながら検討している。例えば、農家であれば石灰でいいが、まちなかで石灰を使うと後々固まったりいろいろな問題が出てくるので、石灰ではなく違う消毒剤を散布するなどの方法を検討していて、その準備に入っている。

北村議員：ボランティアの関係で町外からボランティアに来たという好意はすごくありがたいが、中には不審な人もいる。過去の例でいくと、盗難があったこともあるので、安易には受け入れられないということはよく理解するが、町内の方で、顔と名前がわかっている人たちのボランティアを募集するなり、受け入れる窓口をつくることはどうなのか。給水所に役場の職員が各地区に行っているが、役場の職員にはもっとやってもらいたいことがあるんじゃないかなという気持ちがちょっとしている。

小笠原総務課長：ボランティアの関係については、社会福祉協議会が窓口になる。その中で、どのようなボランティアがあるのか調査をし、準備を進めている。

高薄町長：ボランティアチームを編成したと聞いているが、報告はまだ受けていない。

北村議員：社会福祉協議会へ行って聞いてきたが、まだ受け入れの準備ができていないから事実上は断っている状況だという話だった。例えば、給水関係について、お年寄りが水を取りに行ったりすると労力がかかるので、そういった支援の体制を町内会にお願いするということはできないか。給水所の給水にあたる人のボランティアをつくってもいいのではないかと思っているが、町内会や希望者を募ることもやっていいのではないか。

小笠原総務課長：確かに人手が足りないということは現状だが、ただ、確実に何時に何人来れるかが把握できないと逆に現場が混乱する。人が入ることによって何もしないでも出てくるようになると、逆に何しているのかと怒られる状況になるので、確実に何人来れるか把握できないと難しいと思う。北村議員が言うように、皆さんボランティアをしたいという気持ちがたくさんあることは知っている。ただ、何をこうしてほしい。何時に来てくださいという形で、きちんと答えられるのであればいいが、そうじゃないと逆に現場が混乱してしまうので、今のところその整理を社会福祉協議会へお任せしている。

北村議員：ボランティアにこだわるつもりはないが、高校生のボランティアや団体として取り組んでいるところがあると思う。そういった形で何らかの組織的な対応ができることを優先的にできないのかなと思っている。無理なら無理で構わない。

小笠原総務課長：今、清水高校のアイスホッケー部等がやっているが、例えば同じ仲間の家が被災した地域の泥を片づけたりと活動を自主的にやっている。こちらの方からどこに行っても行ってやってくださいという形でやっているわけではなく、自主的にやっている。1点、お願いしたのは、土嚢づくりの人出が足りなかったもので、高校生がそういった形で動いているという状況を踏まえ、土嚢づくりを手伝ってもらえないか。何時に何人来れるかとお願した経過はある。

北村議員：交通の関係は、国道、町道が通行止めになっている。例えば帯広方面に行く、札幌方面に行くと言った場合の迂回路については情報がないので、町や開発の防災ステーションなどで掲示してもらえないかという声を何人かから聞いた。今日、開発へ問い合わせたところ、災害復旧に人手がいつているので余裕がないということだったが、ホームページを紙に印刷したものなら掲示できるということであったので、先ほど見に行ったら貼ってあった。しかし、開発は国道だけの管轄なので、町道などに関しては責任が持てないということ。1週間経っているのに、道をわかっている人がいると思うが、町道や道道の関係の連携を取った形での情報提供が必要ではないかと思っている。

菅野建設課長：町道については5万分の1の図面に落としている状況で、表示がなかなか難しいが、情報館等に現在の部分の地図を貼ることはできる。

北村議員：役場に行けば情報が得られるなど、はっきりしてもらえるとありがたいという話だった。中には情報掲示板をつくるかという人まで出てきている。

高橋議員：清水町の65歳以上は人口の3分の1で、このうち一人暮らしの方の人数が把握できていると思うが、安否確認は全員終わっているのか。

小笠原総務課長：直接私の方で確認はしていないが、給水を兼ねて安否確認を保健福祉課の方で回っている。

全部回れているかどうかは言えない。

高橋委員：この後、全戸確認できるように動くということでしょうか。

高薄町長：全部は回り切れていないが、保健師や在宅支援のメンバーで動いているので、順次情報は入れて、その中で対応をしていくと言っている。今日も私の町内会の方にも来ていたので、やっていると思う。

高橋議員：先ほど水道課長は本日から14日を目途に断水が解除されると言っていたが、それは全面解除という認識でしょうか。14日を目途に一部解除ということか。

高薄町長：私の政策判断も含めてだが、一刻も早く住民の皆さんに安心感や予定を示したいということで、大変強力なチームを編成し、今日に至っている。感謝を申し上げなければならない方がたくさんいるが、そういう中で2週間ということ。全面地区ではない。清水市街地の通水してから点検が入ってくる。完全な水を飲めるまでが2週間ということ。人舞については、ペケレベツ川の方は行ったが、佐幌川の方が確認されていないので、この辺を確認し、通水してみてどこに漏れがあるかということを含めていくと、2、3週間と多めの状況を見ていかなければならないと思う。

木村議員：避難勧告に関わってだが、旭山方面を含めた避難勧告の中で、住んでいるが町民税を納めていないので避難勧告の連絡がいかなくて避難できなかったという方がいた。物置で1晩過ごしたという方がいると本人ではないが、付近の方から聞いた。住民ではないという扱いになるのかを確認したい。

小笠原総務課長：避難勧告・避難指示に関しては、ここにいる方全員に対してやっているのですが、町民・町民以外は関係ない。

原議員：今日で3日目になるが、軽トラックの上に500キロ乗る水のタンクを乗せて努力をしているが、清和団地の公営住宅が非常に手薄だと感じた。力もないし、一人の人などが多い。当初、北星団地の方を回っていたが、北星団地はすぐ横に給水所がある。そこに行けない人については、私が努力をしていた。清和団地に何度も水を運んだりしていたが、その給水所はどこにあるのか。

堀水道課長：団地ということではなく、町内を分割して考えた中で、町の5か所プラス自衛隊が1か所設置した。清和団地ということではなく区域割をした結果、清和団地が一番遠いところになるかもしれないが、使うとしたら東地域集会所、または北地域集会所になると考え、そのような対応をしている。

原議員：私が皆さんに言っているのは、車がある人には水を配付しない。車があるのであれば取りに行ってくださいという言い方をしている。清和団地は車もない人が結構いる。水を与えると神様、仏様のように手を合わせる人が結構いるもので、そこを手当てした方がいいのではないかという感触を私自身受けているので言わせてもらった。

金田副町長：要支援者については保健福祉課で押さえて、できるだけ家庭に届けるような対策をしているが、今聞いた清和団地の関係は確認していなかったもので、そこら辺については対応できるような話を持っていきたい。

安田議員：先ほど旭山の一番奥の別荘地帯の話が出たが、久山川、中野川の上に何人かいるが、自衛隊の話ではなく、直接総務課長が電話などで連絡し、大丈夫か確認したのか。

小笠原総務課長：私は現場になかなか出られないので、私が確認したのではなく、自衛隊があそこに出勤した時に全体を把握した中での報告をした。

安田議員：報告者の名前は把握しているのか。

小笠原総務課長：自衛隊の方から「この世帯の誰々さんは大丈夫でした」という形で受けている。

安田議員：先ほどの水道の説明で、農業用水石山水系はわかったが、円山水系をもう少し詳しく説明してほしい。

堀水道課長：もう少し詳しくというのは、施設の被害状況か、それとも状況のことか。

安田議員：調査中と言ったらそれで終わりだし、水がいつ出るか予定があればそれも教えてほしい。また、その近くのファームポンドに入れるとか、その辺をもう少し詳しく願います。

堀水道課長：現在、調査をしながら、並行して地域の方々の情報も得ながら、例えば水がなくなっていたり少なくなっているファームポンドを聞き、そちらに給水をしたり、農協には全く水がいかない状況の戸別の対応をしていただきながら対応をしている。石山も円山地区についても同じ状況。

安田議員：JAはかなりいろいろな町村からJAつながりで大きなタンク車を用意して配付している。それが全部に行き渡っているかどうかはわからないが、だいたい今のところは搾乳や牛に飲ませる水は行き届いているという判断をしてもよい。

堀水道課長：誠に申し訳ないが、行き届いている、いないの判断は私どもの方には届いていない。JAの方

で把握しながら対応をしている状況。確かにいろいろと水を必要としているところに行き渡ってはいないかもしれないが、鋭意努力をしながら送水していつている。

高薄町長：今回、対策の中でJAから話があり、私どもも心配していた。かなり深刻だった。一番酪農・畜産に関わって把握できるのはJAだということで、機械の器具等についてはJAに委任する。ローリーやタンク、発電機を含めた中で戸別対応もお願いします。その代わりに、水だけは町村自治体になるので、消防も含めて水の中身については私どもで対応する。まさに、これがJAグループの一番の発揮どころではないかと話して、それで全道からの救援隊もぜひと話している。トラック協会もあるので、この旨もお願いしている。ずっとはできないので、なんとかこの辺をもう一度ファームポンドも含めた中からどういう方法がよいのか、あらゆる手立てをしていかなければならないということ、痛切に考えながらいるので、もう少し待ってもらわなければならない部分があることを理解していただいている。

この面については、多くの意見が寄せられているので、その旨をここで報告させていただきたいと思う。

安田議員：国道と道道の橋の欠損箇所と復旧見込みはどうか。他に委託することもできると思うが。

菅野建設課長：国道と道道の橋の欠損箇所の方については、私どもはわからない。ただ、それを把握する人が必要ということで、4時から国道、道道の道路担当者が集まって、その辺の聞き取りと協議をしている。

鈴木議員：JRがこういう状況になって、JRは芽室までは動き出したと勝毎に入っていた。未確認だが、十勝バスが御影まで入ってくるという話も聞こえてきたので、もし把握している部分があれば、現在わかる範囲でお願いします。

金田副町長：JRがこのような状況になって、高校関係にも支障をきたしているが、現在、高校スクールに限定して話をすると、3台で今まで運行していた。今回のことによって、1台増えて4台で運行している。先ほど、関係者と話をしたが、そのうち1台を帯広から来た帰りの時に町民に乗っていただき、帰りは迎えに行く時に乗っていただくと。つまり、空のバスを町民の方に利用してもらおうと。時間的に帯広に通うのは時間的に難しいかもしれないが、その辺の対策はお願いしているが、正式な結果は出ていない。

高薄町長：その会議に副町長が出られなかったのが私が出たが、ボランティアでJRの代わりとして無料で町民を清水駅、御影駅、帯広駅へと行き帰りを運んでくれる。あとは柔軟に清水町から要望があれば、1時間5分くらいで動いているが、15分から20分くらいまでの間の許容範囲はできる可能性があるということで動いている。また、帯広三条高校だけは直接要請があったので、新得、清水ということで動いている。これも当面行う。

また、コミュニティバスが走っているが、最初はストップだった。担当でいろいろやっていたが、なかなか判断が出ないということから、北海道から危機管理の企画主幹が来て、本庁を通じて言ってもらったら許可になり、料金を取らなければならないところを自由にやっということで、喜んでる。

加えて、教育委員会は、今日は来ていないが、学校の再開と児童福祉の方で保育所・幼稚園が再開する。ただ、給食センターに水が通っていないので、簡易給食で賄うことになっている。

西山議員：今回、現場にいて非常に感じたが、建設協会は災害協定を結んでいるのになぜ早くから動けないのかと感じた。町サイドだけで土嚢をつくりながら配付してというのは、限られていて回れないというのは当たり前だと思う。

加来議長：西山議員、今は被害の状況を把握する説明で、個々の課題については限られた時間なので、今後対応する中で話してほしい。

西山議員：分かりました。

中島議員：私は、今日この会議で、執行側から説明を受けて現状を把握したのだから、議員として町民に現状を説明するべきだと思う。先ほど議長が言ったように、今は調査をして、どう今後やっというかが先なので、その辺は議員としても共通認識を持つ必要があると今回は思っている。私はたまたま昭和37年と49年の災害を経験して執行側にいた人間だが、その時の対応と今は別の立場で見ている時に、議員は町民の立場や職員の立場も理解した上で説明をある程度できるものは果たしていくべきだと、改めて今回感じた。それで役割を持とうじゃないかということ、議員の皆さんに呼びかけたいと思う。

加来議長：今、中島議員から言われたことは金曜日の視察の際に前もって私の方からもお話ししたように、現状を把握して町民と執行側の立場に立って説明できるように、我々も一緒にまちづくりをもう

一回していくんだという立場で、議員として活動することも含めて前回は集まったので、今日もその意味を持って集まった。今後ともまたよろしく願います。課題は、今後の議会を通してやっていきたい。

加来議長：他に意見はあるか。

(なしの声あり)

加来議長：最後に町長から総評をお願いします。

高薄町長：皆さま方にご心配をいただいている。まちづくりを基本条例のとおり3者揃ってこれからの新しい課題に向かっていきたいと思っているので、ご理解いただきたい。なお、町民の皆さまからさまざまなご意見をいただくが、これほどまで水が大切だということをつくづく感じた。普段、トイレを使っているが、1回流すとタンクの水がなくなってしまう。こんなに使っていたのかという声が寄せられている。今後、そういったことから水の大切さを住民共々考えていかなければならないと思っている。

なお、今回、いろいろな形の中で専門的にやっているが、退職した技術陣の水道OBチームがボランティアを結成し、その力が大変大きな役割をしてくれたことに感謝している。そういう面から、今後もOBの力添えをボランティアの方でもしていただこうと話している。その後の活躍をまた期待したいと思っている。よろしく願い申し上げて、今日の報告とともに共通認識をさせていただいたことをありがたく感じている。どうぞよろしく願い申し上げます。

加来議長：なお、9月定例会の今後の予定は、この前も話したとおり、27日開会予定で、20日一般質問受付、13日議運という予定で進めたいと執行側と協議をしたので、よろしく願います。

議案等も日付を直したりして今後発送になるかと思うが、このような事態なのでできるだけあまり手をかけないで、効率良く議会を進めていきたいので、ご協力をお願いします。

高薄町長：今まで8月の末から9月の中旬までの行事を一切中止または延期にしている。神社や敬老会も大変楽しみにしていた方がいたと思うので、迷惑をかけている。加えて、10月1日に開町記念式があるが、このような中で式典をしているのかどうかということも検討中で、私としては表彰者の自宅に行き、表彰したらいいのではないかといろいろ検討している。できるだけそういったものを縮小しながら、淡々と今の事態の対応をしていくべきではないかという意見もあるので、その辺を尊重しながら皆さん方にも伺いながら進めていきたいと思うので、その時は相談に乗っていただきたいと思う。よろしく願い申し上げます。

【休憩 17:03 執行側退席】

【再開 17:03】

加来議長：このあと議員会役員会を開きたいと思うので、協力をお願いします。終了したい第1委員会室へ願います。

皆さまの方から何かあれば伺う。ありませんか。

(なしの声あり)

加来議長：それでは、忙しいところ集まっただきありがとうございました。これからも皆さんと力を合わせながら議会として議会の役割を果たしていきたいと思うので、ご協力をお願いします。今日はこれで終了する。ご苦労様でした。